

早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「イメージ文化史」
主催シンポジウム

「写真とフェティシズム」

Fetishism and Photography

早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「イメージ文化史」では、これまで写真とマンガを中心的テーマとして扱ってきた。写真については、2016年度のワークショップ「『真実性の彼岸』——写真的体験再考——」に引きつづき、2017年度は国際シンポジウム「写真とフェティシズム」を開催した。以下に、同シンポジウム発表者である橋本一径氏の論文を収載する。

「写真とフェティシズム」

- ◆日 時：2017年12月5日（火） 17：00～19：30
- ◆場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館 3階第1会議室
- ◆発表者：橋本一径（早稲田大学教授）

「写真における二つのフェティシズム」

ミシェル・ポワヴェール（パリ第1大学教授）

「覆面とネックレス：パリのシュルレアリスムにおけるエロチック写真と空想的民族学」

Le fétichisme et la photographie

organisé par le Centre de Recherche en Littérature, Arts & Sciences de l'Université Waseda

- ◆ le mardi 5 décembre 2017 17：00～19：30
- ◆ Université Waseda, Campus Toyama, Bâtiment 33, Salle 1 (3^e étage)
- ◆ Kazumichi Hashimoto (professeur de l'Université Waseda)

Un double fétichisme dans la photographie

Michel Poivert (professeur de l'Université Paris 1)

La cagoule et le collier : photographie érotique et ethnographie romanesque dans le surréalisme parisien